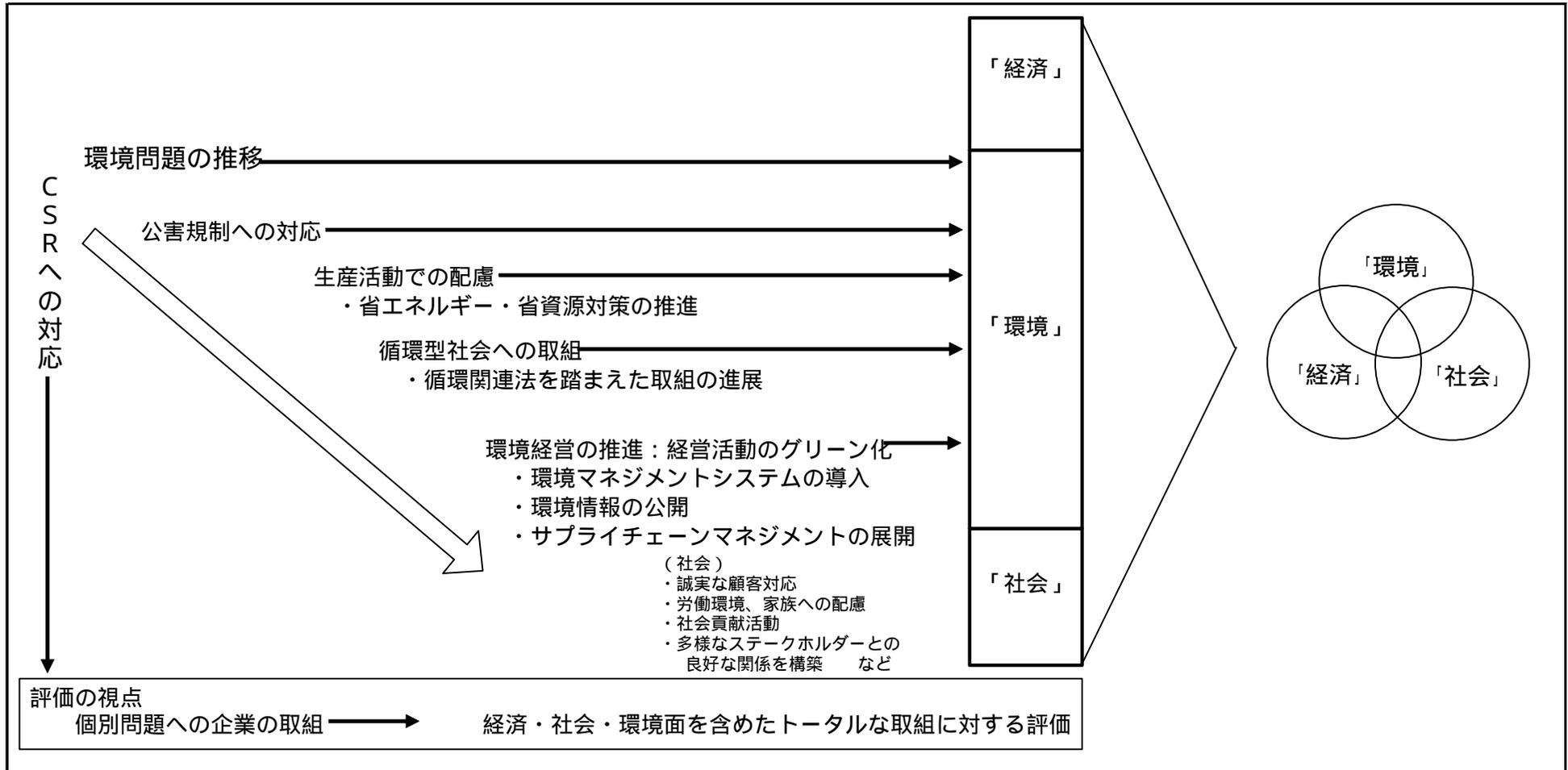
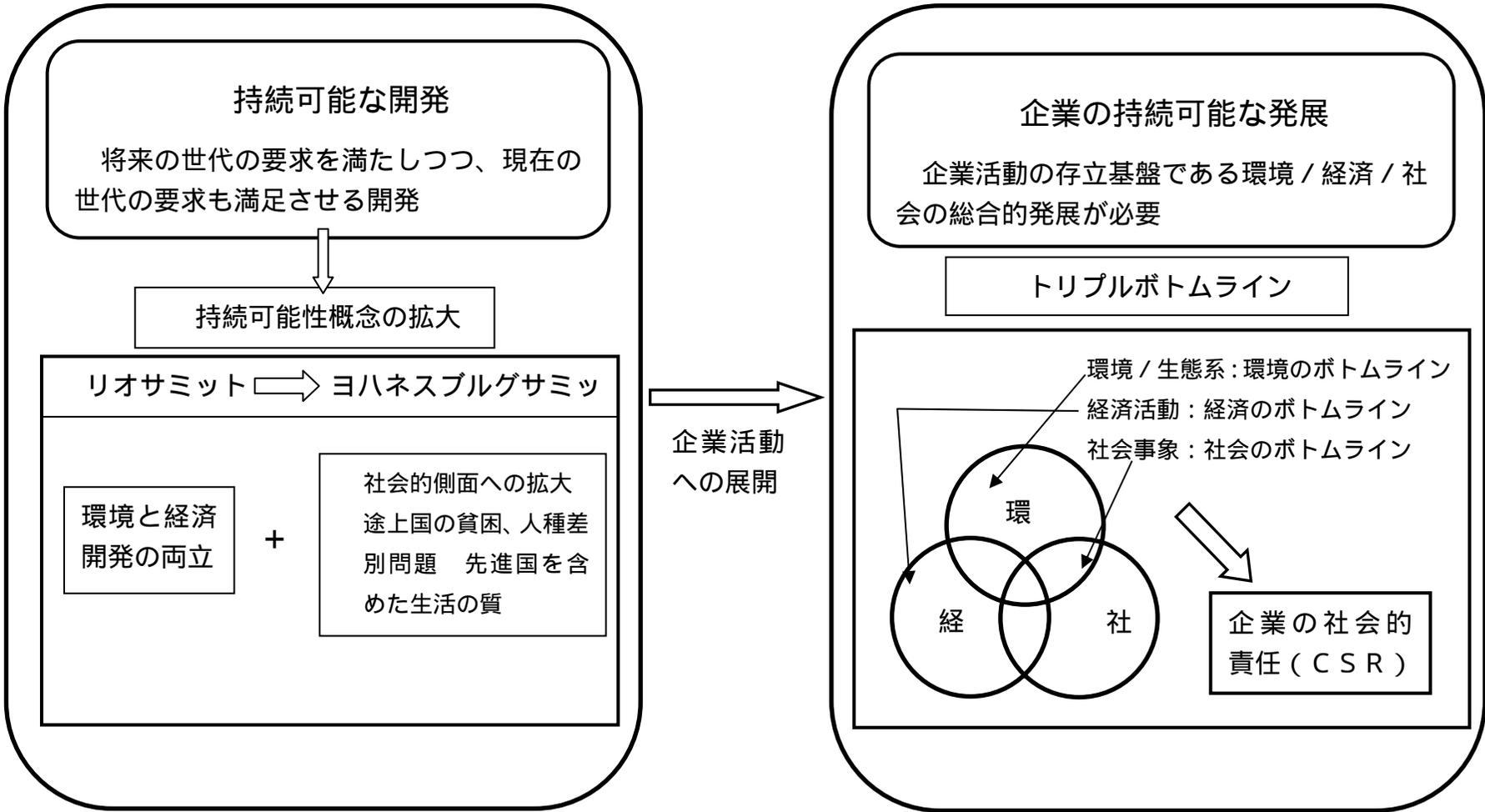


企業の社会的責任（CSR）に関する考え方の展開

CSR の環境面のイメージ



持続可能性とトリプルボトムラインのイメージ



企業の社会的責任の推進に関する仕組みの展開

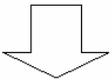
企業の社会的責任（CSR）に関する国際基準・規格の動向

海外事業活動関連協議会資料
(2003年1月14日)をもとに作成

企業の社会的責任(CSR)に関する国際基準・規格の現状について

CSRに対する関心の高まり

- 企業活動のグローバル化に対する懸念
NGOや開発途上国には、貧富の格差拡大や環境破壊を生むとの批判がある。
- 消費者行動の変化
環境や人権、労働環境への配慮を求める傾向が強まっている。
- 投資家からの評価
社会的責任投資(SRI、企業の社会的側面も考慮して投資先を選定)が普及している。
- 従業員の意識変化
企業を選択する際に、当該企業のCSRへの取り組みを重視する傾向がある。
- 法制化に向けた動き
欧州諸国を中心に、CSRやSRIを側面支援する法制度が見られる。



CSRに関する各種国際基準・規格

Green Paper 366
欧州委員会により発表。各方面からの意見をふまえ、EUにおけるCSR推進に関する戦略を示したホワイト・ペーパーを発表

コーン卓会議の企業行動指針
日米欧の民間企業経営者が協働で策定した初めての企業行動指針

The Global Compact
国連により発表。人権、労働、環境分野に関する9原則

OECD 多国籍企業ガイドライン
加盟国政府が多国籍企業に対して一定の行動のあり方を勧告する指針

○CSRの定義(EUIによる): 責任ある行動が持続可能な事業につながるという認識を、企業が深め、社会・環境問題を自発的に、その事業活動及びステークホルダーとの相互関係に取り入れるための概念

○各基準・規格の構成は、取組項目のみのものや、マネジメントの仕組みを示したものなど多岐にわたっている

○各基準・規格で示された取組内容は、地域・作成団体の具体的関心度、優先度により異なる。

- ・法令遵守
- ・消費者保護
- ・環境保護
- ・労働
- ・安全衛生
- ・腐敗防止
- ・人権擁護
- ・地域投資
- ・地域貢献

GRI ガイドライン
米国NGOにより発表。環境、社会、経済的側面を含めた情報開示のための報告指標

SA8000
不公正かつ非人道的な労働慣行を撤廃することを目的とした米国NGOによる規格

AA1000
ステークホルダーズの間手の下、組織の社会・倫理的説明責任を改善することを目的とした英国NGOによる規格

ECS2000
麗澤大学経済研究センター企業倫理プロジェクトにより発表。倫理実践のためのマネジメント・システムの構築を体系的に示す企業倫理に関する

ISO におけるCR の規格化
2001年4月のISO理事会で、技術管理評議会(TMB)に対して、High Level Advisory Group on CSR を設置し、2003年3月までにCSRに関する規格化の是非等について検討し、その結果を報告するよう求める決議が行われた。10月に報告書が提出された。
ISO/TC207 バリ総会では、方向が示されず、引続き、TMBへの協力を継続することが決議された。

(社) 経済同友会
「「市場の進化」と社会的責任経営—企業の信頼構築と持続可能な価値創造に向けて—」を公表し、CSRへの取組を提唱すると同時に、具体的な取組を促進するための「企業評価基準」を提唱